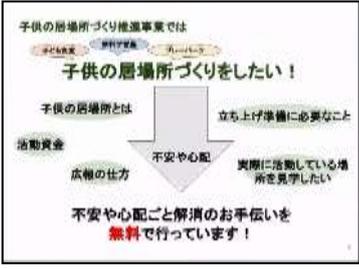
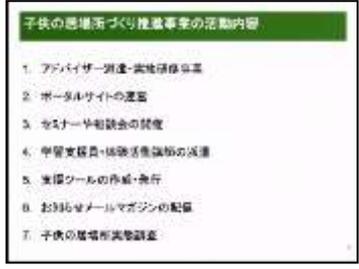
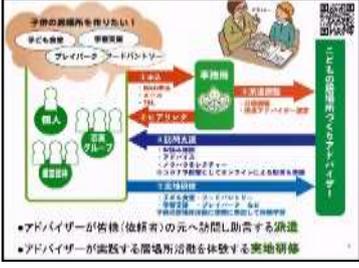
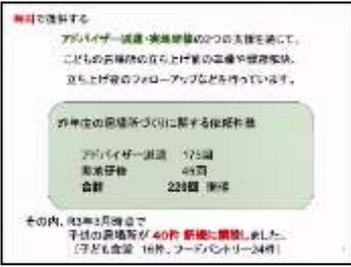
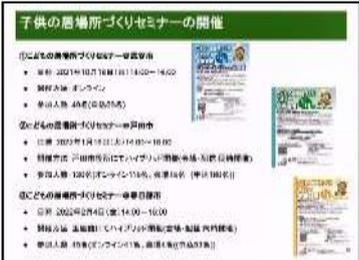
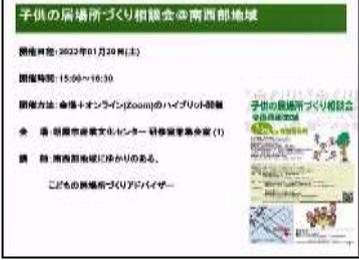
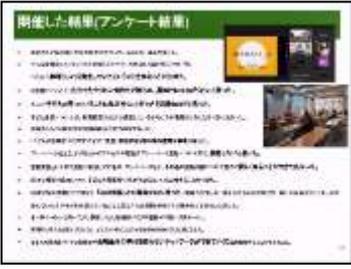
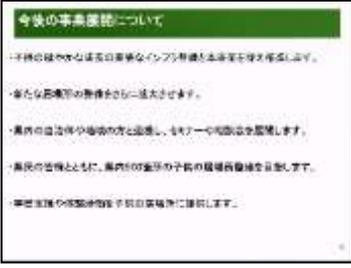


1		<p>こんにちは。NPO法人新座子育てネットワークです。</p> <p>新座子育てネットワークは1999年に設立し、22年目を迎えるNPO法人です。</p> <p>新座子育てネットワークでは、地域子育て支援をはじめ、児童センターの運営、東日本大震災における遺児家庭支援の日本ユニセフ協会との協働、子供の貧困問題に取り組む日本生活組合連合の「子供の未来アクション」など、様々な社会的活動に対する実践や先駆的なプロジェクト、調査、総合研究等を行ってきました。</p>
2		<p>様々な取り組みをしているなかで、令和元年度から埼玉県より委託業務として、埼玉県子供の居場所づくり推進事業の事務局を担っております。</p> <p>本日は、埼玉県子供の居場所づくり推進事業についてご紹介をしたいと思います。</p>
3		<p>推進事業の重要な業務として、子ども食堂や無料学習塾、プレーパークなどの、子供の居場所を「立ち上げたい。」「始めてみたものの、課題がある。」「さらに活動を発展させたい。」という県民の皆様への支援を行っています。</p>
4		<p>具体的にアドバイザー派遣・実地研修事業、ポータルサイトの運用、セミナーや相談会の開催、学習支援員・体験活動講師の派遣、支援ツールの作成・発行、お知らせメールマガジンの配信、子供の居場所実態調査を行っています。</p>
5		<p>アドバイザー派遣・実地研修事業では、子供の居場所実践者や、食品衛生・広報・福祉制度などの専門家を「こどもの居場所づくりアドバイザー」として任命し、県内の居場所づくりや居場所活動の啓発・発展にご協力いただいています。</p>
6		<p>実際の流れとして、図にある通り、①居場所を立ち上げるための不安解決や課題解決・発展的な活動を考えている依頼者様から私たち事務局が依頼を受け、②依頼者からの具体的な相談内容等のヒアリングを行います。</p> <p>それから、③私たち事務局が、アドバイザーの選定、派遣や実地研修の受け入れの日程調整を行い、アドバイザーが依頼者のもとで訪問支援、もしくはアドバイザーが実施している居場所を体験していただいています。</p>

7	 <p>新規で依頼する アドバイザー派遣・実地研修の2つの支援を承じて、 子どもの居場所のさら上げ等の準備や確保実施、 さら上げ等のフォローアップなどを行っている。</p> <p>世界の居場所づくりに関する保障料表</p> <table border="1"> <tr> <td>アドバイザー派遣</td> <td>175回</td> </tr> <tr> <td>実地研修</td> <td>49回</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>224回 198万</td> </tr> </table> <p>その内、23年3月時点で 子供の居場所が40件 新規に開設しました。 (子ども食堂 16件、フードバンク24件)</p>	アドバイザー派遣	175回	実地研修	49回	合計	224回 198万	<p>昨年度は、コロナ禍ではありますが、アドバイザーが訪問支援をするアドバイザー派遣、アドバイザーの実施する場所に依頼者が伺う実地研修、合わせて220回実施しています。</p> <p>子供の居場所が令和3年3月の時点で40件、新たに開設されました。</p> <p>現在も、新規開設に向けて数十件準備しています。</p>
アドバイザー派遣	175回							
実地研修	49回							
合計	224回 198万							
8	 <p>アドバイザー派遣・実地研修の利用者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇 二年続けて実施し、子供たちの居場所づくりの重要性を改めて実感した。 〇 居場所づくりの重要性を改めて実感し、子供たちの居場所づくりの重要性を改めて実感した。 	<p>毎年アドバイザー派遣、実地研修を利用していただいた方からのアンケートをいただいています。</p> <p>「2年続けて利用し、いずれもこの制度がなければ始められなかった。」「想像できなかった、実際に発生するトラブルや困惑なども教えていただいた。」「課題のある家庭との関わり方を、わかりやすく、楽しく教えてもらった。」「コロナ禍での対応を教えてもらった。」などと、居場所の開設や課題解決・発展に役立ったと声をいただいています。</p> <p>アドバイザー派遣については、実際にアドバイザーが依頼者のもとにお伺いするほか、コロナ感染防止の観点から、オンラインでのアドバイザー派遣も行っています。</p>						
9	 <p>こども応援ネットワーク埼玉</p>	<p>詳細とご依頼は、埼玉県が開設する「こども応援ネットワーク埼玉」の上部インデックスにある「こどもの居場所づくりアドバイザー」のページをご覧ください。</p>						
10	 <p>こども応援ネットワーク埼玉</p>	<p>こちらのポータルサイトでは、子供の居場所に役立つスタートブックなどツール類もダウンロードが可能となっております。</p>						
11	 <p>こども応援ネットワーク埼玉</p>	<p>また、「こどもの居場所マップ」というものもございまして、地図状のもので、どの地域にどんな居場所があるのか、まとめたページもございまして。</p> <p>市町村の名前をクリックしていただくと、その市町村にある子供の居場所の一覧が表示され、場所の情報を見ることができます。</p> <p>他にも、子供の居場所を支援できる方や企業と求める団体のマッチング掲示板や助成金の情報など、子供の居場所に役立つ情報が満載となっております。</p> <p>常時更新していますので、ぜひご覧ください。</p>						

12		<p>続きまして、子供の居場所づくりセミナーですが、今年度は3回実施いたしました。</p> <p>すべて参加者を募って会場での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、オンライン開催に変更や、会場の定員を少なくし、オンラインと同時開催のハイブリッドで開催いたしました。</p>
13		<p>相談会は年に4回程度開催しています。</p> <p>今年度につきましても、4回行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、やむなく1回中止いたしました。</p> <p>会場で開催した際には、手指消毒・検温・換気など感染対策を行いながら、開催いたしました。</p>
14		<p>相談会の一つ、子供の居場所づくり相談会@南西部地域について、ピックアップしてお話します。</p> <p>主に南西部地域である和光市、朝霞市、新座市、志木市、三芳町、富士見市、ふじみ野市を中心に、実践者を交えた相談会を1月29日に、朝霞市産業文化センターとオンラインのハイブリッドで開催いたしました。</p>
15		<p>今回の相談会開催に至った経緯としては、コミュニティあさかさんが主催した「子どもの未来アクションオンライン学習会」をサポートした際に、当団体が埼玉県より担っている子供の居場所づくり推進事業を紹介したところ、南西部地域の子供の問題に取り組む活動が交流し、新たに関心を持つ人たちと出会う場を設定できないかということとなり、相談会という形で開催することができました。</p> <p>開催目的として3点、子供の居場所の必要性や活動を実践事例から学ぶ機会、居場所づくりに関する相談ができる機会、子供の居場所づくり推進事業活用のきっかけを提供いたしました。</p>
16		<p>開催目的3点を踏まえて、実践事例は子供の居場所づくりアドバイザーであり、南西部地域で子供の居場所を開催しているお二方からお話いただきました。</p> <p>「わ・和・輪の会子ども食堂」、両角小夜子様からは、主に子ども食堂についてお話をいただきました。子供の居場所はどんな場所なのか、子ども食堂の名前の由来や活動を始めたきっかけ、活動内容や、コロナ禍での活動として現在提供しているお弁当のこだわりの点など、写真を投影しながらお話をいただきました。</p> <p>学習支援については「こどもの未来アクション」の動画を上映し、プレーパークについては、「朝霞の森プレーパーク/トカイナカ」の野上眞由美様から、プレーパークの業務委託を受けるきっかけや現在の活動状況などたくさんの写真を投影しながら、具体的なプレーパーク内で行っている遊びをお話していただきました。</p>

17		<p>参加者は、会場5名、オンライン10名の合計17名の方に参加していただき、皆様前のめりでお話を聞いている姿がとても印象的でした。</p> <p>参加していただいた皆様にアンケートを行い、抜粋したものを掲載しています。</p> <p>「子ども食堂の場所も名前も知っていたが、素晴らしい活動をしていたということを知ることができた。」「自分でもやりたい気持ちが膨らみ、具体的に繋がりたいと思った。」「経済状況の貧困だけではなく、心の貧困をなくす活動を考えてみたいと思った。」などと、アンケートから子供の問題や居場所について伝えることができた実感しています。</p> <p>また、すぐに行動をしたいというお声もいただき、最初にご紹介したアドバイザー派遣にも、その場で、申し込みをしてくれた方がいらっしゃいました。</p>
18		<p>新型コロナウイルスの感染状況による経済活動の停滞による負の影響が、子供や若者に影を落とし、ひとり親家庭等困窮家庭での子供の育ちには厳しさが増えています。</p> <p>こうした社会状況のもと、子供の居場所づくりの推進には子供を育てる社会のセーフティーネットとしての期待と注目が高まっています。</p> <p>私たちは、子供の健やかな成長の重要なインフラ整備と本事業を捉え、22年の、子どもと子育て分野における経験と知見・ネットワーク・ICT技術を駆使して推進します。</p> <p>子供の居場所づくりへの、県内の気運を盛り上げ、新たな子供の居場所づくりの担い手を発掘し、子供の居場所づくりアドバイザーの皆様と、県内の自治体とも積極的に連携し、空白地域や活動の少ない地域に向けて、セミナーや相談会をきめ細かく発展し、居場所づくりの担い手や地域の機運の醸成に努め、県の方針である、県内に800ヶ所の子供の居場所を目指します。</p> <p>また、家庭学者の環境が不十分で、早い時期から学びに遅れを生じる子供たちの学びを支援する学習支援や体験活動の提供に、学習支援団体や、県内企業の社会貢献活動と連携して取り組みます。</p>
19		<p>以上、ご清聴ありがとうございました。</p>